

## 第 5 回 船橋市交通ビッグデータ見える化協議会 議事概要

○日時：令和 4 年 2 月 1 日（火）10：00～11：30

○場所：船橋市役所 11 階 大会議室 ※WEB 会議同時開催

○意見交換内容

### （1）対策進捗と効果検証結果

これまでの協議会で検討を進めてきた交通円滑化対策及び交通安全対策の対策進捗と効果検証結果を説明した。

意見

- ・市営霊園入口交差点の対策では、交差点の直交化により、主道路の停止線間距離が短縮された上、信号制御もシンプルになっており、非常に良い事例だと思う。
- ・同交差点の効果検証では、現在の交通円滑化面の効果把握に加え、安全性の視点でも効果評価を実施したらどうか。
- ・都市計画道路 3・3・7 号線の開通効果については、整備目的（週末や墓参り時期への渋滞緩和）を踏まえて、休日等の混雑時にターゲットを当てた分析も実施したらどうか。
- ・今回紹介のあった事例のように ETC2.0 プローブデータなどの交通ビッグデータを活用することで対策実施後、短期間で効果評価などの分析が可能となる。
- ・今回のように対策実施までスムーズに検討が進められた理由は、関係機関でデータ分析結果を共有できたことが大きく、それを効果的・効率的に実現できる仕組みがこの協議会の特徴・成果でもある。

### （2）船橋市全体の交通状況のモニタリング結果

これまでの協議会にて採用している船橋市全体の交通状況を把握するための指標（旅行速度、交通事故等）に関する数値のモニタリング結果を説明した。

意見

- ・交通状況のモニタリング結果は、変化の度合いがわかる図として、差分図などがある良い。
- ・事故件数の変化の分析する際には、ポアソン検定などの統計的な評価を導入するもの一つの方法である。
- ・生活道路の安全性を考える上で、幹線道路の渋滞を避けて生活道路に入った車両が住宅街で事故を起こすと思うので、幹線道路の渋滞対策とセットで検討できるのが理想である。
- ・ビッグデータ分析では、対策実施に伴う副反応（新たな課題把握）にも活用できると良い。
- ・協議会資料でも検討している渋滞と事故の双方の発生状況の重ね図などを分析することで、双方の関係性も含めた交通状況の分析が可能となると思う。
- ・町丁目単位の事故発生状況の図に、ゾーン 30 の位置を重ねることでわかりやすくなる。
- ・新型コロナウイルスが拡大した令和元年度や緊急事態宣言下では、前後で交通量や旅行速度などの交通状況に大きな変化があったものの、その後は徐々に戻ってきており、現在では前後で比

較してもあまり変化がない状況である。ただし、個別区間や時間帯別など詳細を見ていくと、中身が違う可能性がある。

- ETC2.0 プローブデータを使って、車種別や時間帯別に詳細分析できると、さらに分析の幅が広がる。
- 今回の検討によって、交通円滑化対策及び交通安全対策の PDCA サイクルが一巡できた。今後も継続し、二巡目・三巡目の PDCA サイクルを回せていけると良い。

### (3) 今後の予定

今後の予定を説明した。

- 来年度も検討を継続する予定であり、協議会の開催は、今後の進捗を勘案し、時期が決まり次第、改めて連絡・調整したい。

